東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2006年1月20日

言葉

親愛なるムスリムの皆様。崇高なるアッラーは、人間を、精神的、肉体的能力の観点から、生き物の中で最も完成されたものとされました。特別なものとして、人間に、考える力、話す力を与えられ、自分の思いを明らかにできるように、特別な舌を与えられたのです。

崇高なるアッラーは、人間にとって舌が重要な恵みであることを、「また一つの舌と二つの唇を」（町章第9節）という章句で示されています。舌を用いて話す全ての言葉が、天使によって記録されていることも、次の章句で明らかにされています。「見よ、右側にまた左側に坐って、２人の（守護の天使の）監視者が監視する。」（カーフ章17節）さらにクルアーンは、舌が、審判の日、その持ち主についてよいこと、悪いことを立証するとしています。「その日、かれらの舌と手と足は、その行ったことに就いてかれらに（不利な）立証をする。」（御光章24節）

親愛なるムスリムの皆様。舌は、一つの鍵のようです。善の扉も、悪の扉も、開くことができます。だから、私たちの口から出る言葉に注意し、知性や信心のはかりでよく調べてから話すべきです。考えなしに口にする言葉は、時として相手を怒らせたり、不満を抱かせたり、けんかのもとになったり、様々なよくない状況をもたらすことがあり、また人間関係を壊すこともある、ということを忘れないようにしなければなりません。だから、最もよい言葉を用いなければならず、また場所をわきまえず思いつくことを何でも話したりすることも避けなければなりません。崇高なるアッラーは、この点について次のように仰せられました。「われのしもべに告げなさい。『かれら（ムスリム）は何事でも最も丁重に物を言いなさい。』悪魔は、かれら（不信者）との間に（紛争の）種を蒔く。本当に悪魔は人間の公然の敵である。」（夜の旅章53節）アッラーは、英知を伴ったよい言葉で、人々を教えに招かなければならないこと、そして優しい言葉がどれほど大切であるかということを教えられておられます。さらに、誠実な振舞いとよい言葉が、その人をアッラーの御前に到達させるであろうことを述べられ、言葉によって人々を傷つける者を非難されておられるのです。

預言者ムハンマドは、人を罪に陥れる一番の器官が舌であることに、注意を喚起されました。アッラーの御前において最も価値のある信者とは、手によって、そして言葉によって他人に害を与えない人であることを明らかにされました。教友の一人が「アッラーの使徒よ、私に、細心の注意を払うべきことについて忠告を与えてください。」と言った際、預言者は「私の神はアッラーである、と言いなさい。その道でいるようにしなさい。」といわれました。教友はさらに、「罪を犯す、という点で、最も注意すべきことは何でしょうか。」とたずねました。預言者は、手で舌を示されつつ、「これです。」とおっしゃられました。

親愛なるムスリムの皆様。正しく、よい言葉を語ることを、私たちの教えはサダカだと見なし、このような言葉がアッラーの御前においては善行を得る媒介となりえることを教えています。だから、ムスリムは優しい言葉、笑顔を持ち、誰も傷つけることのないようにしなければいけないのです。これが信者にふさわしい振舞いなのです。中傷、嘘、陰口、うわさを広めること、関係を壊すこと、などの、教えが禁じていることを話し、またそれを聞くことは、絶対に避ける必要があるのです。

ここで述べる次の章句を、常に覚えているようにしましょう。

「慈悲深き御方のしもべたちは、謙虚に地上を歩く者、また無知の徒（多神教徒）が話しかけても、「平安あれ。」と（挨拶して）言う者である。」「嘘の証言をしない者、また無駄話をしている側を通る時も自重して通り過ぎる者。」（識別章63節･72節）